

## 第13回

書道監修・執筆 河野 隆

## 書体のルーツを探る ～篆書～

## 今回学ぶこと

今回取り組むのは、漢字の5つの書体（楷書、行書、草書、隸書、篆書<sup>てんしよ</sup>）の中でも一番古い篆書という書体だ。まず篆書の基本的な筆使いを知るために「大小」と書いてみる。そして、臨書するのは秦時代の「泰山刻石<sup>たいざんこくせき</sup>」。今から2000年以上前。中国を初めて統一した始皇帝は、正式な文字を篆書の一つである小篆<sup>しょうてん</sup>に統一し、その文字で自分の功績を中国各地の山に刻ませた。現在まで残っているものの一つが泰山刻石だ。

学習前チェック！ 用語の意味を確認しておこう

点画<sup>てんかく</sup>／起筆<sup>きひつ</sup>・送筆<sup>そうひつ</sup>・収筆<sup>しゅうひつ</sup>／藏法<sup>ぞうほう</sup>・逆筆<sup>ぎゃくひつ</sup>／  
甲骨文<sup>こうこつぶん</sup>、金文<sup>きんぶん</sup>、小篆<sup>しょうてん</sup>／拓本<sup>たくほん</sup>

## 篆書とは？

篆書に含まれるのは、亀の甲羅や動物の骨に刻まれた甲骨文。そして青銅器に鋳込まれた文字、金文。さらに、今から2000年以上前に中国を初めて統一した秦の始皇帝が用いた小篆などだ。これらの古代文字をまとめて篆書と呼んでいる。

篆書の筆使いは、起筆は逆筆で、筆を包み込むように入り、送筆では穂先が線の中心を通るように同じ太さで書く。収筆は軽く筆をとめてそのまま離す。線には裏表がなく均等な太さで穂先が線の中心を通る。左右対称の形も特徴だ。

## 書の造形を楽しもう

後半の実践では甲骨文や金文などの古い篆書で書かれた十二支を取り上げる。干支の漢字は、牛や馬、虎などそれ

## 今回のお手本

筆使いを学ぶ  
大小泰山刻石  
(秦時代 前219年)

(拡大版は42、43ページ参照)

ぞれの動物ではなく、丑、午、寅といった別の漢字が使われている。どちらも古いルーツを持つ漢字だ。その中から自分の干支など、好きな古代文字を選んで書いてみる。古代の文字は一番古い文字でありながら造形的にも豊かで新鮮な表現ができる。絵を描くのと同じ様な気持ちで自由に形を作ることができる。ポストカードにデザインするように書いてみよう。

## 書の文化を伝える知恵

大東文化大学書道研究所では、さまざまな書の資料をコレクションし、研究している。

その多くは中国の古典だ。優れた書を長く伝えるために、中国では書を石に刻み、石碑として残してきた。ここから拓本をとることで、たくさんの資料ができる。

石碑全部をそのまま拓本にしたもの全拓、ぜんたつ全搨と呼ぶ。しかし、石碑は大きいものが多く、そのままでは手本として使いにくい。そこで、大きな拓本を一行ずつ切って並べ、1冊にまとめたせんそうほん剪装本が作られた。

また、優れた書を石や木に刻んで版画のように刷ったものもある。王羲之の蘭亭序も法帖になっている。このように昔からさまざまな法帖が作られ、書を学ぶ人たちの参考となってきた。

### 達人からひとこと！

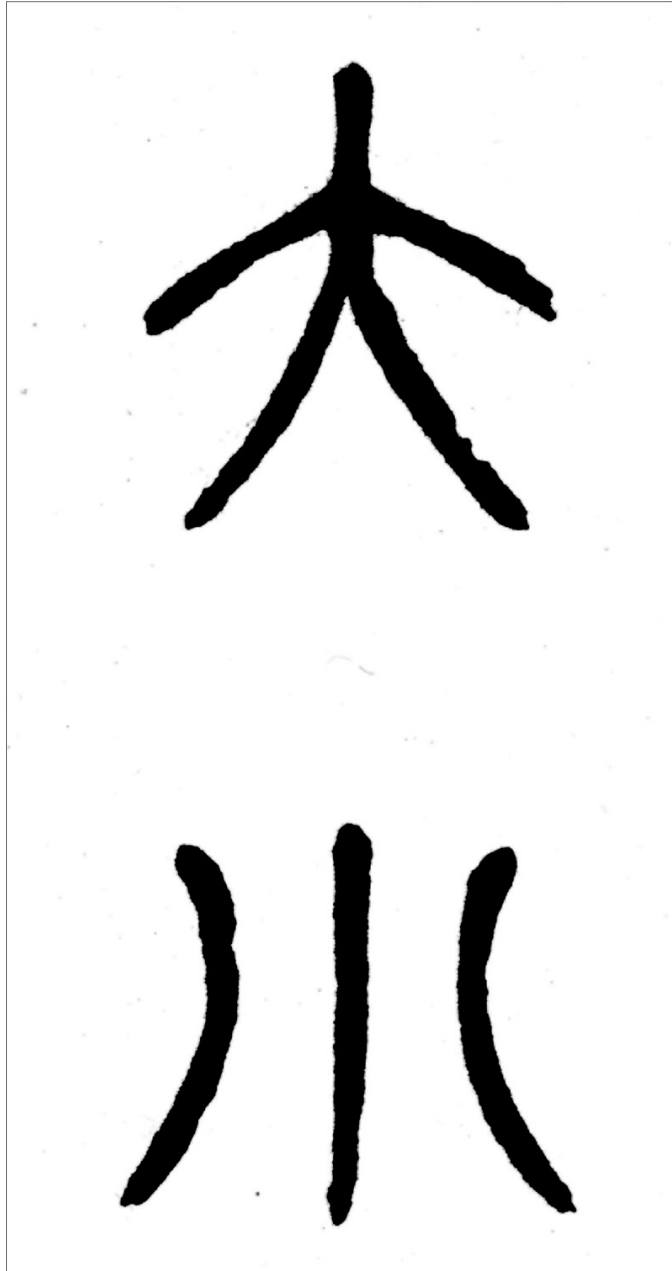
篆書は漢字のもっとも古い書体です。標準となるのは、秦の始皇帝の時代の小篆で、左右対称を基本とした不動の構えに特徴があります。しかし、殷の甲骨文から漢時代まで1500年の間には、時代、地域、素材、目的等によって実に多種多様な篆書の字例があります。

筆使いが他の書体とは違いますが、逆筆、藏法を練習して、新鮮な魅力溢れる篆書ワールドを味わってみてください。



達人  
河野 隆

大小



泰山刻石



Handwriting practice lines consisting of ten horizontal dotted lines on a white background.